

# 地方経済

## 新型草刈り機開発

### 三陽機器 作業効率をアップ

農業機械メーカーの三陽機器(岡山県里庄町新庄)は、油圧シヨベルの先端に取り付けるアタッチメント式草刈り機で、刈り取り性能に優れた新機種を開発した。刈り刃を「らせん状」に配列するなどして草の抵抗を抑え、作業効率を高めた。6〜10トクラスの油圧シヨベルに装着して使うタイプ。箱型(幅約1・7メートル、奥行き約1・7メートル、高さ約1・5メートル)で、刈り刃が付いた回転軸(幅1・2メートル)で草を刈る。

従来の直線に配列していた刃を、らせん状に改良。刃のサイズを一回りアップさせ、80枚から32枚にした。これにより草刈り時の抵抗を低減でき、作業スピードが1・2倍に向上したという。商品名は「ハンマーナイフモアー」。価格は約206万円。道路のり面や河川敷での作業のほか、農業の担い手不足で拡大している耕作放棄地の再生用などでの用途を想定。



刈り取り性能を高めたアタッチメント式の新型草刈り機

定。農業分野に新規参入している建設業者らの需要も見込み、当面は年間50台の販売を目指す。

同社は1966年設立。トラクター前部に取り付け、農作物や牧草の積み込み作業などに使う「フロントローダー」で国内シェア約7割のトップメーカー。油圧シヨベル用アタッチメント式草刈り機は97年に発売した。資本金6600万円。売上高24億4千万円(2011年5月期)。従業員約100人(パート含む)。

(大河原三恵)